



応募名称

多くのステークホルダーとの連携で実現した食品ロス有効活用の食のセーフティネット事業

会社名、事業場名

特定非営利活動法人フードバンク山梨

山梨県南アルプス市 / <http://www.fbyama.com>

■ 具体的な取組内容 ■

フードバンク山梨は、食品ロスを生活困窮者支援に有効活用する「食のセーフティネット事業」を創造し、多くのステークホルダーとの協働により、第2のセーフティネットのひとつとして新たな価値を生み出しています。

1. もったいない食品ロスを集める

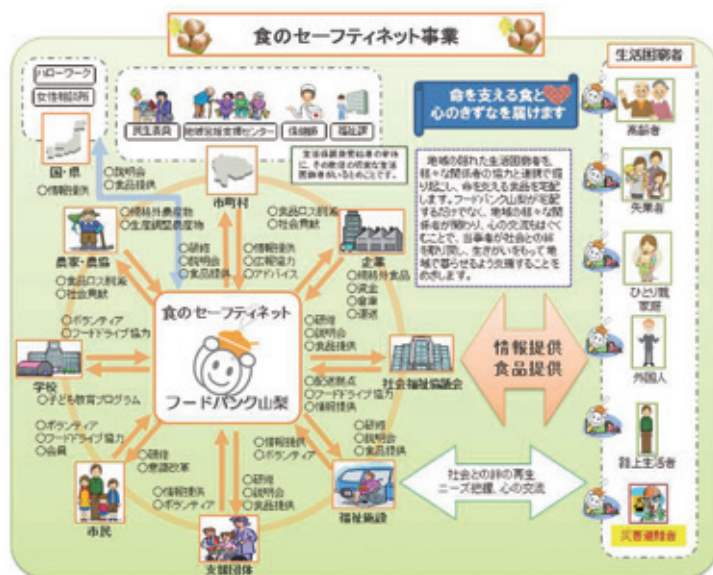
フードバンク山梨には、市民からもったいない食品がたいへん多く寄せられます。家庭に眠る食品を寄付していただくフードドライブの期間中は、山梨県下に19ヶ所の回収拠点を設けます。広範囲の多くの市民から、12月には7.5トンが寄せられました。

2. 食品ロスの有効活用「食のセーフティネット事業」

貧困は地域の中で非常に見えにくくなっています。「食のセーフティネット事業」は、食品を寄贈くださる企業・農家・市民に始まり、45の行政機関などと連携確約書を結び、民生委員、病院、学校まで多くのステークホルダーと連携し、地域の力を活用したセーフティネットを実現しています。今、この活動が先進モデルとして注目され、全国のフードバンクやその他の支援機関・団体に広がりつつあるところです。

3. 子ども教育プログラムにより未来につながる活動に

フードバンクを通して食と福祉について深く知ることは、もったいない精神と感謝・助け合いの心の醸成が図られます。フードバンクを次世代につなげていくために、学校などでの講演に積極的に取り組んでいます。



■ 評価 ■

「食のセーフティネット事業」の創造、多くのステークホルダーとの協働やフードドライブの実施、子ども教育プログラムによるもったいない精神の醸成など、地元地域と密接に関わった取組を評価した。